

# 働き方改革・産業人材確保対策特別委員会会議録

令和3年11月2日

場 所 第5委員会室



令和3年11月2日（火曜日）

午前9時59分開会

会議に付した案件

○概要説明

教育委員会

1. 本県のキャリア教育の推進について
2. 小中学校のキャリア教育の取組について
3. 県立高等学校のキャリア教育の取組について

○協議事項

1. 次回委員会について
2. その他

出席委員（10人）

委員	長	田口雄二
副委員	長	窪菌辰也
委員		井本英雄
委員		山下博三
委員		日高博之
委員		野崎幸士
委員		日高陽一
委員		坂本康郎
委員		前屋敷恵美
委員		囷師博規

欠席委員

委員		坂口博美
----	--	------

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教育	長	黒木淳一郎
副教育	長	中原光晴
教育次長		児玉康裕
		（教育政策担当）

教育次長		黒木貴
		（教育振興担当）

教育政策課長		川北正文
高校教育課長		谷口彰規
義務教育課長		吉田英明
特別支援教育課長		松田律子
生涯学習課長		長尾岳彦

事務局職員出席者

政策調査課主事		高山紘行
政策調査課主任主事		田中孝樹

○田口委員長 それでは、ただいまから働き方改革・産業人材確保対策特別委員会を開会します。

本日の委員会の日程についてでありますがお手元に配付の日程（案）を御覧ください。

本日は、教育委員会から本県のキャリア教育の推進について、小中学校のキャリア教育の取組について、県立高等学校のキャリア教育の取組について説明を頂きます。その後に、次回委員会の内容について御協議いただきたいと思います。このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、執行部入室のため暫時休憩いたします。

午前10時0分休憩

午前10時1分再開

○田口委員長 委員会を再開いたします。

教育委員会の皆さん、おはようございます。執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表に代えさせていただきます。

いと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○黒木教育長 おはようございます。教育委員会でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には、本県教育の振興につきまして、日頃から御理解、御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

それでは、本日御報告させていただきます項目につきまして、御説明いたします。

お手元にお配りしております「働き方改革・産業人材確保対策特別委員会資料」表紙下の目次を御覧ください。

本日、御説明申し上げます事項は、本県のキャリア教育の推進について、小中学校のキャリア教育の取組について、県立高等学校のキャリア教育の取組について、の3項目です。

私は、何のために学ぶのか、何のために働くのかを教育するという、大きな使命がキャリア教育にはあると考えており、未来を担う人材を育成するために非常に重要な教育であります。

しかしながら、小・中・高の連続した学びや地域との連携等課題もありますので、引き続き見直しを図ってまいりたいと考えております。

私からは以上であります。内容につきましては引き続き関係課長が説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

○谷口高校教育課長 資料の1ページをお開きください。「1 本県のキャリア教育の推進について」であります。

(1) にありますように、キャリア教育の目標は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることです。

(2) の基本方針は、「①小・中・高等学校等

の縦の連携を図りながら、発達の段階に応じたキャリア教育を進める。」、「②学校と家庭や地域社会、企業等と幅広く横の連携を図りながら、キャリア教育を進める。」、「③本県の産業や地域性に配慮し、宮崎県独自の課題やニーズに対応したキャリア教育を進める。」の3点であります。

(3) のキャリア教育の取組についてであります。①のアにありますように、本県のキャリア教育を推進するために、宮崎県教育研修センターの中に宮崎県キャリア教育支援センターを設置しております。現在、5名のコーディネーターを配置し、教職員や学校、さらには市町村に対してキャリア教育に関する様々な支援を行っております。

「イ 宮崎県キャリア教育支援センターの活動」といたしましては、「1) 研修の支援」としまして、学校の教職員研修に対する支援、あるいは市町村教育委員会の職員研修に対する支援などを行っております。

2ページを御覧ください。

「2) 教育活動への支援」としましては、学校で職業人講話を行う人材の紹介や授業の目的に応じた団体の紹介、さらには職業人講話の研修方法や実施方法について、学校への助言や支援を行っております。

また、「3) その他の支援」としまして、キャリア教育を推進していく上で有用な情報の提供や、市町村が立ち上げるキャリア教育支援センターへの支援、コーディネーターの配置についての指導や助言を行っております。現在、キャリア教育支援センターを設置している市町村は、日向市、延岡市、小林市、高鍋町、都農町で、日南市は教育委員会の中にセンター的な機能を有する部署を設けております。

次に、全県的な取組としまして、「② 県民総ぐるみ教育推進研修会」を県内7地区で実施しております。この研修会は、学校、地域、企業関係者が一堂に集い、地域人材を活用した研究授業や実践発表、協議会等を実施し、これからの宮崎を担う人材育成や地域の活性化に資する研修会を開催しております。

また、③にありますように、専門性や人材など豊富な教育的資源を有する企業等と連携・協働し、企業が積極的に学校・家庭・地域の教育活動に参画できる環境を整備し、地域ぐるみの教育支援システムの普及・発展を図ることを目的に、アシスト企業による教育協働活動を実施しております。これらの理念に賛同していただいているアシスト企業には、出前授業等により子供たちに働く喜びを与える講話や、職場見学や体験活動等を提供していただいております。令和3年10月現在で279社の企業に登録を頂いております。

○吉田義務教育課長 続きますして、小中学校のキャリア教育の取組について御説明いたします。3ページをお開きください。

小中学校の取組につきましては、小学校の取組、中学校の取組、そして、本課が取り組んでおります「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」の3つに分けて説明をいたします。

初めに、(1) 小学校の取組についてです。

県内の小学校では、自分や他者へ積極的に興味を持つことや、身の回りの仕事や環境への興味を持つこと、また、勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度を身につけることなどを狙いとして、発達段階に応じたキャリア教育に取り組んでいます。

具体的には、地域とふれあう学習や地域のよさを知る学習として、まち探検や昔の遊び体験、

保育園児との交流活動などを、低学年を中心に実践しています。また、地域とより深く関わったり、ふるさとのよさを発信したりする学習として、川などの自然の調査や見学、様々なものづくり体験、それら調べたことを地域の人や下級生へ発表することなどを、主に3、4年生で行っております。

高学年では、体験を基に地域の課題や自分ができることを考える学習に取り組んでおります。主な内容としては、福祉体験や地域で働く方からの講話、レポート作成や発表会などがあります。

次に、中学校の取組についてです。

中学校では、自己肯定感や自己有用感を獲得すること、自分の興味・関心に基づいた勤労観・職業観を身につけることなどを狙いとして、キャリア教育に取り組んでいます。

まず、自分の将来について考える学習として、今の自分について分析する活動や自分の将来について考える活動などに取り組んでいます。

また、職業についての学習として、職業を調べる学習や職場体験学習、様々な職種の方からの講話などを行っております。

さらに、地域に貢献する学習として、地域行事への参加や地域でのボランティア活動などを行っております。

次に、「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」について御説明いたします。4ページを御覧ください。

事業の概要をポンチ絵で示しております。本事業の目的は、義務教育段階において、将来の地域や産業、そして宮崎県を支える人材を育成するため、人口減少対策にもつながるキャリア教育への質的転換と、それに伴う地域と学校におけるキャリア教育の協働体制の在り方を研究

し推進することでありませう。

ポンチ絵の中ほどにありますが、本事業では中学校区ごとに4つのモデル地域を指定しております。各地域においては、地域住民、保護者、教員等で構成するキャリア教育協働協議会を設けて、地域と学校が役割を分担・協働しながら取組を進めているところだす。

4ページの下半分、①から④にモデル地域の取組をまとめています。地域ごとの目標を設定し、学校と地域が目標を共有しながら取り組んでおりますが、これらの取組の具体例を説明いたします。

まず、①田野中学校区では、2つの小学校と1つの中学校が連携し、地域の力を生かした教育活動を展開しております。昨年度は、キャリア教育を推進するための組織づくりや研修会などを行ったり、地域の方と協働して大根やぐらづくりを行ったりしております。

②木城中学校区では、1つの小学校と1つの中学校によりキャリア教育推進のための組織づくりを中心に研究を進めており、昨年度は、町民と教職員が木城の子供たちのよさや課題を語り合う場を設定しております。

③日之影中学校区では、教育の内容や計画の工夫、体験活動の充実を図りながら研究を進めております。昨年度は、中山間地域の課題解決に向けての学習を行い、近未来会議を開催して高齢化対策・観光活性化・農業振興などのテーマについて、成果を発表しております。

④五ヶ瀬中学校区では、小中学校の9年間を見通した研究を進めており、昨年度は町のPR活動を町外の商業施設で実施したり、宮崎大学と連携してキャリア教育に関する児童生徒用の読み物資料「五ヶ瀬でがんばる人たち」を発行したりしております。

以上、県内小中学校の取組の概要を紹介いたしました。各学校においては地域の実態に合わせて、保護者・地域・企業等と幅広く連携しながら、子供たちが将来の夢や希望を持つことができるようキャリア教育に取り組んでおり、この取組を高等学校でのキャリア教育につなげていきたいと考えているところでありませう。

○谷口高校教育課長 5ページを御覧ください。

「3 県立高等学校のキャリア教育の取組について」だす。

これまでの高等学校におけるキャリア教育は、大学等の進路先の調査や職業講話が中心でした。現在は、総合的な探究の時間において、自己の在り方や生き方に照らし、自分の今後の進路や生き方などと関連付けながらキャリア形成の方向性や問いを見いだし、探究することができる力を育成するような取組を行っております。

具体的な例として、飯野高校におきまして、学科・コースごとに全ての生徒が、地域をフィールドに探究活動を行い、地域住民や地域の専門家など地域の団体と連携して生徒主体のイベントを実践しています。このような、地域の新たな価値を創造し、地域社会で活躍できる人材の育成を行っております。

また、延岡高校におきましては、延岡市キャリア教育支援センターと連携しまして、総合的な探究の時間に科学技術の専門的知識を持っている地域の方々が指導やアドバイスを行う、いわゆるメンターとして関わっていただいております。

延岡工業高校、日向工業高校におきましては、地元の産業界と連携し、企業経営者や卒業生である若手社員の方々を学校に招いて、地元で働き生活する魅力を話していただく「教えて先輩」というような取組を行っております。

都城農業高校におきましては、4学科の2年生、そして高鍋農業高校のフードビジネス科の2年生が、総合実習の時間に連携企業に赴いて長期の実習体験を行っております。

延岡商業高校におきましては、長期化する感染症によって経済活動に影響を受けている観光・宿泊業などについて、自治体や地元企業と協働しながら、民泊のPRや観光のPRを推進するなど、地域課題の解決に向けた探究的な学びを実施しております。

家庭科では、宮崎農業高校が地域解決課題に取り組む企業にインタビューを行い、実際に職場に出向いて体験実習を通して社会貢献の意義を学んでおります。

福祉科におきましては、見守り介護ロボットや電動ケアベッドなど介護用具業者を招いて、実際の介護現場で使われている最新機器の講習会を実施しております。

このように、小・中・高それぞれの取組を紹介してまいりました。今後、さらにキャリア教育を充実させていくために、6ページの宮崎県キャリア教育の全体構想図を作成しております。

今後は特に、小学校から中学校、中学校から高校と連続した学びになるように、より縦の接続を意識したキャリア教育を進めてまいります。

また、図の一番下、横に矢印が伸びているところですが、学校や家庭、地域が連携した学びを支える横の連携を、さらに意識してキャリア教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

**○田口委員長** ありがとうございます。

執行部の説明が終了いたしました。委員の皆さんの御意見や質疑がございましたら発言をお願いいたします。

**○日高博之委員** 先々週の県内調査において、延岡市キャリア教育支援センターにお伺いしました。

キャリア教育支援センターが、各地域の商工会議所と連携して取り組んでいるという特徴があることがわかりました。その中で、「よのなか先生」というものをピックアップして取り組まれています。場所によっては、受講者が高校生が多いとか小学生が多いとか、まちまちだと思いますが、その辺は地域差かなと思っております。

課題として、宮崎市と都城市にキャリア教育支援センターが設置されていないことを挙げられていました。この地域は学校も多いし生徒数も多いので、ここをどうにか突破口として開きたいんだという話がありました。

このことについて、県の教育委員会はどのように捉えているのか、お伺いしたいと思います。

**○谷口高校教育課長** たくさんの児童・生徒を抱えております宮崎市、都城市につきましては、市の教育委員会の中にキャリア教育の担当があります。

しかしながら、キャリア教育支援センターを現在設置している6つの市町と同じような形で、前向きな形で設置されていくことが望ましいと考えております。

**○日高博之委員** 当然、キャリア教育を推進しているので、設置されることが望ましいことは分かるんです。

今後、どのように宮崎市や都城市と連携をしていくのかというところを、お伺いします。

**○吉田義務教育課長** 宮崎市や都城市のように学校数の多い自治体では、他市町に設置されているような教育支援センターを1か所設置しても、なかなか手が回らないのが実情だと思って

います。

今後は、可能であれば、キャリア教育のコーディネーターの役割を担える人材をそれぞれの市町村に配置して——それが宮崎市や都城市だと恐らく複数人必要だと考えていますが——そういう方々に地域と学校をうまくつないでもらう。そのような仕組みをつくれたらと考えています。

**○日高博之委員** それはいいのですが、実質、ここが本丸ということなんですよ。企業や人材も多いんですよ。企業の社長さんも多いし、ここには企業が集中しているんですよ。

コーディネーターの配置を増やしていくというような中途半端なことをするより、そのような企業の方々を掘り起こしてキャリア教育をしていくほうが、意味があると思います。

**○吉田義務教育課長** 現実問題として、学校と地域をつなぐ役割は、どうしても必要だと考えています。

それを実現するためには、まず人の配置がどうしても不可欠です。そこをつくり上げてから、次の段階に進むのがよいのかなと今の段階では考えております。効果のあるように取組を進めていきたいと思います。

**○日高博之委員** 現実的に、この学校と地域をつなぐというところの問題がちょっと難しいから、コーディネーターを増やすということですね。

そうですけれども、キャリア教育は早くどんどんやっていかないといけないだろうし、せっかくその土壌があるのにそこをやらないと——これは県の教育委員会だけの課題ではないですよ。宮崎市や都城市の取組が重要だと思います。キャリア教育が重要だと思えば、予算を出してもやるとは思いますが、そこにたどり着けない

ということは、宮崎市や都城市にそこまでの熱がないのかなと思います。その点が課題だなと考えます。

県は、コーディネーターを多く配備することは手段としてあっても、これからのことを考えるとキャリア教育は重要なんですよと、宮崎市や都城市に対してしっかりと伝えていって、その気にさせないといけない。そこがない限り、県全体のキャリア教育は進みづらいんだという印象を、この間受けました。

そこら辺をしっかりと、連携してやってほしいと思います。

もう一つは、コーディネーターの配置は、それぞれの市町村に対し、県も幾らか人件費などについて予算を出していると思います。

しかし、例えば3年や5年を過ぎたら、4人いたところを3人や2人にされ、尻すぼみになる可能性もあり、せっかくつくり上げたものの存続が厳しいということも、この間センター長がおっしゃっていました。

その辺の予算配分については、どのように考えているのかお伺いいたします。

**○谷口高校教育課長** まず、資料の1ページでも載せましたが、県で設置しておりますコーディネーターは5名おります。委員がおっしゃるように、このコーディネーターの役割は、非常に重要であると思っております。

ただし、これは事業の中で配置しているものでございますから、その事業の切替えごとにある程度の見直しをしていかないといけないというようことは事実です。

一方で、このコーディネーターについては非常に重要であるために、少なくとも県が設置しているコーディネーターについては、それなりの事業化をしながら継続をしてまいりたいと



思っております。

**○日高博之委員** 市町村がキャリア教育をやっていますが、これは県が予算を出してなかったのですか。出していないなら、市町村が100%資金を出して、コーディネーターの給料を出したり、いろんなことをやっているということですが、県は助成はしないのですか。

**○谷口高校教育課長** 市町村のコーディネーターに対しては、県からそういった予算は出していません。

**○日高博之委員** 1円も出していないのですか。

では、市町村が単独でキャリア教育をやっているという認識でいいということですね。なるほど分かりました。

**○谷口高校教育課長** 市町村のコーディネーターについて、予算は出していないということです。

予算的なものは出しておりませんが、県が設置している5名のコーディネーターが、市町村におけるコーディネーターの配置等について、様々な助言やアドバイスなどを行っております。

**○日高博之委員** 日向市が立ち上げたときには、県費があったはずなんです。

今は、県の助成は一切ないということですね。ということなら、もう市町村で頑張ってもらえないということになってきますが。

**○吉田義務教育課長** 立ち上げのときには、市町村から補助をしていただくとありますが、現在は県の負担はございません。

先ほど高校教育課長が申し上げたように、活動や在り方に対する支援、いわゆる助言が、県の役割として残っているという状況です。

**○日高博之委員** 分かりました。では、いいです。

**○坂本委員** 御説明ありがとうございました。

今、日高委員がおっしゃったように、私も先日の県内調査で延岡のキャリア教育支援センターに行き、初めて詳しく御説明を伺いました。今の話にありましたように、コーディネーターの方の役割がかなり大きいのかなという印象を受けました。

もっと言うと、コーディネーターの方たち御本人のキャリアというか経験値が、それぞれの市町村で——延岡の場合は延岡の取組とか方向性とか浸透に影響していると思います——差が出るのかなという印象を受けました。

御説明いただいた県の5名のコーディネーターが、どういう方たちで構成されているか教えてください。

**○谷口高校教育課長** この5名の方々については、トータルコーディネーターは旭化成の元延岡支社長でございます。ほかは、学校や教育委員会を経験した方、人事コンサル系の企業にお勤めをされていた方、また、元県職員で地域教育研究所を設立されている方などです。中には、IT系の企業出身で、その企業に勤めていらっしゃる間に、高校の探求学習等に関わっていらっしゃる方もおります。

**○坂本委員** ありがとうございます。

市町村のコーディネーターの人選についても、県からアドバイスや指導をしているのでしょうか。

**○吉田義務教育課長** 市町村のキャリア教育支援センターに配置されているコーディネーターについては、各市町村の希望や、各市町村が考える人材の配置というものがあるので、そこは各市町村のオーダーによるもの大きいと思っています。

**○坂本委員** ありがとうございます。実情がよく分かりました。

別件でもう一つ、2ページに「③アシスト企業による教育協働活動」とあります。このことについて、私も、出前授業をなさっている企業の方に、直接いろいろお話を聞いた機会がありました。そのときに——出前授業の予算の問題とといいますか、費用の問題とといいますか——積極的に取り組んでいるけれども、途中から交通費等が出なくなった、という話を伺いました。

せっかくのいい内容で、このアシスト企業の方たちも前向きに積極的に取り組もうとしていただいています。それに対し、御本人たちは何かお金をくれというようなつもりはありませんが、ただ交通費ぐらいは予算化し、提供すべきではないかと思いました。

現在、このことについてどのように考えているのか、教えてください。

**○長尾生涯学習課長** アシスト企業のことですが、2ページに記しましたように現在279社登録いただいております。

委員がおっしゃった予算に関してですが、このアシスト企業を登録いただく際に、無償で引き受けていただくという原則を御案内しております。これに御了承いただいた上で、アシスト企業として登録いただいているところです。

**○坂本委員** では、基本的に交通費等も含めて負担いただき、取り組んでいただくことが前提ということですね。

**○長尾生涯学習課長** 大変恐縮な思いですが、そういうことでございます。

**○坂本委員** はい、分かりました。ありがとうございました。

**○前屋敷委員** 今のアシスト企業に関連してですが、10月現在で279社という大変多くの登録を頂いており、ここには様々な職種の企業がいると思います。子供たちが将来の仕事を選んだり

する際に、どういう職業があるのか、自分には何が向いているのか、探求する上で重要なことだと思います。

そこで、この279社は登録されているので要請があればいつでも応じてくださるのでしょうか、現在ではどの程度関わっていらっしゃるのか、状況を教えてください。

**○長尾生涯学習課長** 現在、全市町村において企業に登録いただいております——今年度と昨年度はコロナの状況があり大変少なくなっていますが——昨年度は200件を超える御利用がございました。

現在も100件に届かないぐらいの利用があり、最近では、ある中学校には複数のアシスト企業を呼んでいただき、働くことの意義について職業講話を生徒が体験するなど、大変喜ばれているところでございます。

**○前屋敷委員** 分かりました、ありがとうございます。

**○日高博之委員** 県内の市町村に、どれだけのキャリア教育支援センターとコーディネーターがいるのか教えてください。

**○吉田義務教育課長** キャリア教育支援センターは6か所で、そのうちの1か所については支援センターという建物はなく、教育委員会にコーディネーターを配置してセンターの役割が担えるようにしています。

**○日高博之委員** その6か所でコーディネーターは何人いますか。

**○谷口高校教育課長** コーディネーターは、日向市が3名、延岡市が3名、小林市が1名、高鍋町が1名、都農町が4名おります。日南市については、市の教育委員会の中で担当者がいるという状況です。

**○日高博之委員** この状況をみると、まだ県全

体には広まっていないですよ。やりたい市町村がやっているような感じですか。

○吉田義務教育課長 まだ全県下の下に広まっているという状況ではございません。やはり希望のある市町村から設置が進んでいるという状況であり、これから広めていきたいと思っております。

○日高博之委員 水永センター長が——色々な役目を担っていただいておりますが——いつまでいらっしゃるかは分からない中で、ほぼ頼り切りになっているのではないかと気がします。

頼り切ってもいいですが、後継者というか、次の核となる人物について考えているのでしょうか。

○吉田義務教育課長 おっしゃるとおりです。

実際に、次の方というか、受け継いでいただく方を育てないといけません、具体的なめどは立っておりません。現在、県内各地にキャリア教育支援センターもできつつありますので、そういったところから、人材の育成も兼ねて進めていきたいと考えています。

また、県の研修センターに配置しているコーディネーターも、水永氏の取組をしっかり目の当たりにしながら活動しておりますので、この方々の中から後を継いでくれるような方が出てくるのではないかと、期待しているところです。

○日高博之委員 ありがとうございます。

○黒木教育長 御指摘本当にありがとうございます。

キャリア教育の推進に関しましては、現在、10年ぐらい経過しているところでございます。当初、トータルコーディネーターの水永さんを中心に、県下全域の各市町村にセンターをしっかりと置いていこうという取組を進めてまいりました。

ところが、先ほど紹介のありましたように、それぞれの小中学校におきまして、ふるさとに関する学習や働き方・在り方に関する学習など、発達段階に応じて既にしっかりと取り組んでいただいております。

そのような既に取り組んでいる市町村においては、センター的機能あるいはセンターを置くということについて、もう取り組んでいるので、そこまで必要性を高くは感じていないということがあると思います。

一方で、高校の取組について紹介がありましたが、単に職業を紹介するとか、先輩から話を聞くとか、普通科なら大学に入るのが目標であるとか、専門系なら就職することが目標であるとか、それだけではなく、その先の人生をいかに生きるか、何のために働くのか、何のために学ぶのか、こういうところを考えさせることが一番大事だということに、今シフトをしています。ターニングポイントといいますか、各学校がしっかりと考えるようになってきております。

小中学校で既に取組まれており、その教育の上積みとして、高等学校等においてもこのような新たな学びの展開が、地域課題を解決する学習とともに動き出しております。

宮崎市もまだまだだというお話がございましたが、宮崎南高校の生徒さんが市内でアンケートを採り、結果を発表するという取組が生まれるなど、今までそう熱心ではなかった大きな自治体でも、地域課題に根づいた在り方、生き方の学習が始まっております。

今が一番大事な時期に差しかかってきたなと考えております。キャリアパスポートを小学校から中学校につなぎ、中学校から高校まで持っていくものとして、学校を中心にしながら、生徒たちが自らの学びの資料をつくり始めたところ

ろでございます。

ですから、今一番大きな課題は、小学校と中学校でしっかりやっていたいでいる学びを、高等学校にどうつないでいくかということです。そこには、支援センターの大局的な、俯瞰した視点が必要です。このことをしっかり各市町村に御説明させていただきながら、センターが必要なんだということを訴えていかなければなりません。ちょうど、そのような局面に来てると思います。

本日、本当に大切な御指摘をたくさん頂いたと、考えているところでございます。

**○窪菌副委員長** 今説明があったように、10年近く前にキャリア教育という言葉が出ました。

ずっと私は考えてきたのですが、確かに体験する、地域に溶け込んでいく、そういう気持ちを育てるとするのは、本当に大事なことだろうと思います。

昔の話なんですけど、我々が子供の頃と比べて今の子供たちは、どうも家庭における手伝いであるとかしつけなどが、希薄になっているような気がしてなりません。

我々が子供の頃は、生きるのが精いっぱい時代ですので、どこの子供も家の手伝いをしていました。それは当たり前で、全然苦にもならない状況でした。

家庭と学校と、それから地域と職場とが連携をするということで、最後の構想図の中に横の連携というものが示されています。

私が思うことは、例えば女の子だったら洗濯物を取り入れるとか、洗濯物を畳むとか、男の子だったら外庭掃除でもさせるとか、小さい頃から家での上つけの一環として手伝いをさせるというようなことが、学校任せになってしまっているということです。核家族の割合が増える

など社会的な背景もあると思いますが、家庭の中で教育する機会が少なくなっていると思っています。このような、簡単な手伝いなどにより、奉仕の精神や社会貢献の志などが、ずっと一生生きていくと思うのです。

学校を、高等教育を受けることだけを目的にするのではなく、根源にある一番大事なものを教える場にしなければならない、という気がしてなりません。

家庭と学校との連携について、現在、このような精神を育むような取組はされているのでしょうか。一時はあったような気がしますが、お伺いいたします。

**○吉田義務教育課長** おっしゃるように、家庭での役割は非常に重要だと思っています。

ただ、現在の社会背景といいますか、それぞれの家庭の実情が、私たちが育ってきたときと随分違っております。

そこで、キャリア教育の中でも、例えば学校では小学校の低学年だと、学級の係活動で自分がしっかり役割を果たすとか、係活動をすることでみんなの役に立つなどといった体験をさせ、認識させています。そこから子供たちが学び取ることを、キャリア教育のベースとして取り組んでいます。

このような取組については各家庭にもお知らせをしながら、家庭でできることは考えていただくようお願いはしております。

**○窪菌副委員長** 基本的なものは、やっぱりそこから出てくると思います。

自分の進路であったり何なりを決めるのは本人ですから、いろんな体験をさせることも大事なことです。ただ、基本的なものがちょっと薄れてきたかなという気がしますので、このところをもうちょっと深く、特に学校と家庭が連携

していくことが大事だと思います。今後も、キャリア教育の中で深めていくことをお願いしたいと思っています。

**○長尾生涯学習課長** 2ページに示しましたように、県民総ぐるみ教育推進研修会というものがあります。今副委員長がおっしゃいましたように、学校と家庭、地域との連携において、この研修会を通じながら学校と家庭、地域も含め、どのような子供を育てたいのか、キャリア教育を含めて推進会議を行っているところであります。

その中で、当課では家庭との連携に関しまして、家庭教育サポートプログラムというものを行っており、地域の方が働くことの意義を中学生に教えるといった取組をしております。

今後、このような取組をさらに加速していけたらいいなと考えております。

**○井本委員** キャリア教育もこの前始まったような気がしたけれども、10年になるのかと思いました。広がってないと言われれば確かに広がってないかもしれません。

その効果をはっきり認識できないことが、広がらない一つの原因ではないでしょうか。確かに、いいことだということは分かるのですが、具体的に効果を見せてくれと言われても、これを認識することは難しいのではないかという気がします。

その辺の効果について、どのように計っているのですか。

**○吉田義務教育課長** 現段階で、今学校にいる子供たちを対象に効果を計ることは、大変難しいところがあります。

ただ、例えば意識調査などもしております、その中で職業観がどの程度子供の中で高まってきたか、というようなことは計れるようにはなっ

ております。

一方で、それが将来社会に出たときにどうなっているかということは、実際に子供たちが社会人になってからの姿を見なければならないこととなりますので、具体的な将来の効果については、なかなか計りづらいところがあるのが現状です。

**○井本委員** そうでしょうね。分かりました。

**○川北教育政策課長** キャリア教育の効果については、毎年、教育委員会におきまして、各学校を通して家庭に対し、調査を行っております。

それによりますと、約9割に近い学校において、何らかのキャリア教育はされています。

キャリア教育と言いますと、例えばここからここまでがキャリア教育と区切ることが難しく、学校の指導全体の中には、キャリア教育に関わるものは非常に多いと思われま

す。そのような中で、各学校において教員も校長もしっかり認識をしてキャリア教育が行われていると、アンケートで9割程度の結果が出ております。引き続き、各学校におけるキャリア教育の推進を進めてまいりたいと考えております。

**○井本委員** 私自身も、中学、高校で何を考えていたかと思い出しながら考えています。ヨーロッパなんかでは、中学校ぐらいのときには既に自分の職業を決めるらしいですね。私なんかは、大学に入っても何しようかと思ってたぐらいでね。キャリア教育は、若いうちから意識を持たせるための教育なんだと思います。

その効果をチェックしながらやっていき、修正も行いながら進めていくべきではないかと思

います。

分かりました、ありがとうございました。

**○日高博之委員** 9割ぐらいの学校でキャリア教育をやっていると、教育政策課長が言われま

したが、このキャリア教育に似たような事業が、市町村にもあるみたいですね。この間、水永センター長の説明でお伺いしましたが、似たようなのが3つ、4つあるらしいですよ。先ほど、キャリア教育は幅広いと言いましたけれど、これに似たような事業が市町村にも多分あると思います。

その辺りを整理してもらわないと、いきなり9割ぐらいの学校がキャリア教育をやっていると言われても、ちょっとピンと来ない。それはもう、ごまかし以外の何物でもないような気がしてなりません。

水永センター長が、延岡にもキャリア教育に似た事業があり、この辺りを整理しないと、ぼやけて分かりづらいことが課題だとも言っていました。

**○川北教育政策課長** 御指摘ありがとうございます。

すみません、繰り返しになりますけれども、委員の言われたキャリア教育に関しましては、ここからここまでがキャリア教育と認定するというか、考えることは難しい部分もあると思います。

やはり、学校教育全体がもうキャリア教育という認識の下でやることも、大事だと思います。これに加える形で、特化させたような事業をやることも大事だと思っております。

この点は、また市町村教育委員会とも十分協議してまいりたいと考えております。

**○日高博之委員** だったら、全部キャリア教育でいいじゃないですか。みんな寄せ集めで、最終的にうまくいけばいいというスタンスですね。手取り足取り、あっちでもやってこっちでもやってという。私は、県教育委員会のキャリア教育の取組について、それでもう理解します。

それで分かりました、ありがとうございます。

**○山下委員** 現在、高校生の数について、公立と私立の比率はどのようになっていますか。

**○谷口高校教育課長** 在籍者数ということであれば、公立と私立で大体7対3というところでございます。

**○山下委員** ありがとうございます。7対3の比率ですね。公立が7だろうと思います。

さっき、井本委員からもありましたが、私が小さいとき、中学校、高校でどうだったかなと考えると、自分の子や孫と比べて自然で鍛えられ、地域の中で地域の人たちが育ててくれて、いろんなことを教わったと思います。

だけれども、こういう時代になってきて、教育が難しくなり、そして本来は親がしっかりとやっていかないといけないことまで、保育所から小・中・高と、教育現場で本当にきめ細かに指導していかなければならなくなりました。非常に厳しい時代になったなと思います。

我々が子供の頃は、中学校は県外の私立に行く人がおったり、高校は都会に憧れて行くような時代だったのですが、何十年経てもその状況は変わりません。地域産業を活性化するために、どうしても地元に残ってもらうことが、大きな目標だろうと思います。

教育現場の先生方もそうでしょうが、子供は地域の宝といっても、あんまりにも親も、子供にせわしく携わらなければならなくなってきたような気がします。

我々が小さい頃は、保育所が800メートル離れたところだったのですが、田んぼ、畑を1人で帰らせる、それでもよかった時代なんですよ。その中でいろいろなことを体験するだろうし、田んぼの行き帰りに、いろいろなおじいちゃんやおばあちゃんに声をかけてもらったりして、

それでもよかった時代でしたが、もう今はそういうことも許されません。

伸び伸びと育つべき子供の時代から、何かあまりにも力がかかり過ぎていて、自分の方向を自分で決めづらいつころもあるのかなと思います。もうちょっと自然と触れ合うべきだと思いますが、開放し過ぎるとまた事件に巻き込まれるなど、いろいろ心配な世の中になってきました。

素直な子供であって、行く行くは幸せな家庭を築いて、生産活動をしっかりとやってほしいということが、最終的な目的だろうと思います。

皆さん方も、それぞれ自分の子供や孫のことを考えてみて、自分が育った環境と子供たちが育つ環境が違っていると感じていると思います。新しい時代に対応していかないといけないのですが、教育現場におられる皆さん方の目指す姿が、これでいいのかなとギャップを感じることもあります。皆さん方も、自問自答しながら、これでいいのかなと取り組んでこられていると思います。

豊かな宮崎に残すために、これでいいのかなと思ったり、もうちょっとやり方があるんじゃないかなと思ったりなど、教育現場の皆さん方が自問自答されているようなことが何かあったら、教えていただくとありがたいと思います。

**○吉田義務教育課長** おっしゃるとおりで、今は私たちが育ってきた頃とは、随分社会環境も変わりました。

実際に地域コミュニティが薄れてきている、関係性が薄れてきているということは、非常に強く実感しており、子供たちも地域の方と触れ合う機会が非常に少なくなっています。

ですから、逆に、意図的に地域の方たちと触

れ合える機会をつくるという意味で、現在、コミュニティスクール等の取組も進められています。学校と地域が連携する取組ですが、このようなことを意図的に仕組んでいかないと、なかなか地域のつながり自体が保ちにくい時代になったのかなと思います。

そういう意味では、学校におきましてもジレンマは確かに感じております。では、それをどうすればいいかということについては、まだ具体的な解決策を今は持ち得ませんが、関心を持っているところです。

**○山下委員** 現在は、驚異的な進歩によって、情報は何でも取ることができる時代になりました。

しかし、私が大事だと思うことは地域でありますが、特に去年から、コロナ禍の中で地域コミュニティがほとんどなくなってきました。例えば、運動会もなくなったし、敬老会もなくなりました。以前は敬老会でもあれば、子供たちが郷土芸能をやってくれたり、お年寄りにプレゼントをくれたりとか、地域の中でいろんな寄り合いというものがありました。そして、コロナ禍で失ったものを今から再度組み立てて、活性化を図っていくということは、非常に困難なことになってきました。

では、そのことも踏まえて、地域コミュニティも含めた子は宝という考え方をしっかりと詰めていかないと、あまりにもつくられてしまった情報化社会の中で、大事な部分が忘れられてしまっているような気がします。やっぱり子は宝という認識の上で、やり方をもうちょっと考えていかないと、心のぬくもりや地域のつながりといった、大事な部分を忘れたものになってしまいます。

今年は保育所や小学校の運動会などがあつた

のですが、おじいちゃんおばあちゃんには行けません。残念なことですね。非常に寂しさのある中で、ちょうどこの時代を育っていく子供たちに、これはこういう時代だから仕方のないことだということも、一つの教育の一環だとは思っています。

しかし、土台をしっかりとつくって、大事な地域のコミュニティや触れ合いなど、その辺りを考えるという対策をしていかないといけないのかなと、思っています。

ぜひよろしくをお願いします。

**○長尾生涯学習課長** 御指摘のとおりだと思います。

今、学校ではなく地域の側から、御指摘のとおり「学校はどのように考えているのかが分からない」といった声も出ておりました、地域と学校との連携協働というのが一番必要なことではないかと考えております。

そこで、今、地域学校協働本部を地域で立ち上げるということを目指しているところでございます。これによって、より熟議が深まり、地域全体で育てたい子供の資質・能力を、みんなで共通理解することができるということを目指し、取り組んでいるところでございます。

**○田口委員長** 特別支援教育課長もおみえになっていますので、ぜひお聞きしたいと思えます。

6ページを見ますと、特別支援学校、特別支援教育の5つの視点を踏まえたキャリア教育というものが出ておりました、5つの項目が上がっております。

ただ、障がいにもいろいろレベルがあったりしますから、これを見てもちょっと具体的にイメージが湧かないんですね。二つか三つ、こういうことをしている、というような事例を挙

げていただけたらと思ひまして、御質問いたします。

**○松田特別支援教育課長** 特別支援教育の5つの視点を踏まえたキャリア教育についてということでございます。ここに上げています5つの視点につきましては、特別支援学校のみならず、小中学校、高等学校で学んでいる障がいのある子供たちも含めて、このような視点を持ってキャリア教育を進めていく必要があるということを示しているところでございます。

インクルーシブ教育の視点は、障がいのある子供とそうでない子供が共に生きていくということで、互いの理解を深めていくような取組を進めていくものです。また、合理的配慮の充実、障がいのある子供たちにとって学ぶために生活上必要な配慮について、その子にとって不公平な取扱いではなく、どのような配慮が必要であるか、周りの子供たちも理解して対応していくことができるようになるような、そういう視点を持ったキャリア教育です。

また、4番にあります個別の指導計画・支援計画については、それぞれの障がいの状態や本人の希望、また、障がいの程度に応じた将来の教育目標や指導内容等を、しっかりと計画に位置づけて指導を行っていくということが非常に重要です。

これらのことが、学校間の引継ぎにおいてもしっかりできるようにしていくというようなことが、キャリア教育の視点として求められるということが挙げられます。

**○田口委員長** 特別支援学校にも、先ほどのアシスト企業とかそういうものが出向くこともあるなど、もうちょっと分かりやすい具体例を御説明いただけたらと思ひます。

**○松田特別支援教育課長** 特別支援学校のキャ



リア教育の取組についてですが、特別支援学校の特に中学部、高等部におきましては、将来の自立と社会参加のために作業学習であるとか、産業現場等の実習等を行っているところです。

御指摘いただきましたように、ただ単に校内だけでの作業学習を行うのではなく、地域の企業等に出向いての実習等を行っており、また、地域の企業等を招いて、企業の方々に作業学習の講師となって職業教育の学びを深めることや、地域で先輩たちがどのように働いているかを聞く「ようこそ先輩」というような場を設けて学ぶようなこともしております。

○田口委員長 分かりました。

○井本委員 キャリア教育ではないのですが、インクルーシブ教育のことについて伺いたいと思います。

この前、文教警察企業常任委員会で小林のどこかで、小学校、中学校、高校まで健常者と障がい者が一緒になった学校を視察しました。あれは偶然にあんなふうになっていたのかもしれませんが、なかなかいいことだなと私は感じていたのですよね。何か偶然にあのような形態が生まれたのかもしれませんが、こういう形で進めていってもいいんじゃないのかなと私は思いました。

これはキャリア教育ではありませんので、本当だったら文教警察企業常任委員会で聞いたほうがいいのかと思うのですが、たまたまインクルーシブ教育の話がでましたから。どうですか。

○松田特別支援教育課長 先日、視察へ行っていただきましたのは小林こすもす支援学校で、小学部が東方小学校、中学部が東方中学校、高等部が小林高校内に設置されている、非常に珍しい形態の特別支援学校です。

それぞれの学校で日常的な交流ができますの

で、キャリア教育の視点からも生きる力を互いに学んだり、障がいのない子供たちを見本として様々な集団生活に必要な力を学んだりすることができます。障がいのない子供たちは、障がいのある子供たちと日常的に触れ合うことで、非常に優しい気持ちが育まれ、将来は特別支援学校の教員を目指す生徒が出てくるなど、様々な効果が出ているところです。

○井本委員 それを広めたらどうかという質問なのですが、どうですか。

○松田特別支援教育課長 ほかの学校におきましては、高千穂高校にも同じく高等部が設置されている状況もあります。また今後の特別支援学校整備の在り方について検討を深める中で、必要性も含めて協議してまいりたいと考えております。

○日高陽一委員 先ほど生涯学習課長から、地域と学校の連携が大変必要だという話がありました。

調査のときも申し上げたのですが、僕らの地域では、先生がその地域の方の夜の集まりなどに行かれるんですよ。そのことで、その地域の方々との連携がすごくしっかりできています。

先生も仕事が終わって帰りたいと思うんです。時間外ですよ。その時間を使って地域の会に参加され、連携がすごくできていて、先生が何かしたいと地域がすぐぱっと動く形ができています。

そういう状況を考えたら、例えば先生が時間外で動かれているところを、ちょっと仕事の手を抜いてあげるといえるのか、そういうことを何か考えていただくと、そのような連携の形がすぐできるのではないかなと思いました。意見というか、要望なのですが。

○長尾生涯学習課長 まさに今おっしゃったと

おりの現状でございます。学校の先生方は夜にいろんな会議に出られて、惜しみなく協力していただいているところではありますが、その分のこととはできないというのが現状であります。

先ほど申し上げましたように、地域学校協働本部というものを立ち上げ、組織的に地域の委員さんになっていただければ、何がしかのそういったことは考えることができますし、そういった仕組みづくりをきちんとすることが大切だと考えております。

**○野崎委員** 今いろいろお話を聞かせていただきましたが、教育全般はキャリア教育なのに、なぜ分けて特化してキャリア教育を10年ぐらい前に始めたのか、スタートはどういうところだったのでしょうか。

**○黒木教育次長（教育振興担当）** きっかけは、まず時代的な背景があったと思います。

今から十二、三年前というと、フリーターとかひきこもりといった、なかなか社会に適応できない、職業に就けないといったような方々が増えていったという時期だったのがまず一点あります。

それから、先ほどから山下委員などがおっしゃっているように、社会との関係性で、学校教育が社会とかけ離れたところで行われていました。逆に言うと、社会も学校の教育にあまり関心を持たなかったという時代があります。

それでは何のために学んでいるのか、また、社会が求める人材をどう育てていくのかというところでミスマッチが出てしまいます。

そのような背景もあって、6ページの全体構想図にもありますが、自立した社会人、職業人をきちんと学校と社会が一体となって育成していこうと、そのような流れからキャリア教育と

いうものが始まりました。

当初は、職場体験といって、中学生がそれぞれの市町村の職場で三、四日実習をするなど、街に出ていくところからスタートしました。

しかし、それだけではなかなかできないということで、学校教育全体できちんと地元を見直そうとか、地元の方たちをきちんと招いて働いている人のすごさなど話を聞こうとか、そういった形で広がりを見せてきているというところで

**○野崎委員** 自立する人間をつくるという目的は分かります。お話があったように、学校現場と社会の距離ができ始めた時代であったという感じですね。学校・教育側も地域に近づいていかなければならない。学校側も地域に寄り添うような仕組みづくりをしていかなければならない。

スタートで距離があったというなら、近づけるような取組をしなければいけないのではないのでしょうか。ただ子供たちに、キャリア教育、キャリア教育と言っても、その距離が縮まなければ平行線ですから。

先ほど、井本委員からの意見でもありましたが、成果が見えないといけません。もちろん人づくりですから、目に見えないものです。

ただ例えば、この前の衆議院選において若者の投票率が上がり、社会人としての意識ができたところでもあります。若者の県外流出が大分減ってきたとか、帰ってくる人も増えてきたとか、そういった見える化ができるものは、多分キャリア教育の成果と思うんです。

そういう数字として見えるものは、多分10年間やってきたキャリア教育の成果だろうなということで、やっぱり発信していかないと。人づくりだから目に見えないけれども、数値的なも

ので見える化できるものは、教育委員会としてもしっかり皆さんに説明すればいいのになと思っただころでした。

学校・教育側も地域に近づいていかないと、距離が広がっていく一方です。先ほど日高陽一委員から話があったけれども、先生が地域の行事に参加されることは、結果的に地域全体が学校を守って親しみを感じるようになると思います。

○日高博之委員 一度、10年の総括をしてほしいです。要望いたします。

○前屋敷委員 さっきも話しましたがけれども、キャリア教育は、子供たち一人一人の人生に関わる大事な仕事を、どう選ぶかということにかかってくるのですよね。自分が就こうとしている仕事や就いた仕事が、地域の中でどのような役割を果たし、どのように責任を果たすことにつながるのかを知るという意味では、大変大事なことだと思えます。

そういう意識をしっかりと醸成していくという上では、大変大事な仕事であります。社会の構図を見てみると、今若い世代の半分ぐらいが非正規就業者という、現実問題が今生まれているという点では、なかなか先が見えなかったり展望が持てなかったりということもあるでしょうから、そのような現状も踏まえなければなりません。この問題については、もう自治体の責任でも、教育委員会の責任でも何でもないので、そういう背景があるということも考慮に入れなければ、子供たちの将来、目指すものがしっかりとつかめないということにもつながってくると思うのですよ。

ですから、まずは子供たち一人一人が、自分たちが目指す仕事が、どのような社会との関わりで責任が果たせるのか、そういった展望を持

てるようなものにしてほしいと思います。

○田口委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 ないようですので、これで終了したいと思います。執行部の皆さんは退席ただいで結構です。どうもありがとうございます。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時21分休憩

---

午前11時23分再開

○田口委員長 では、委員会を再開いたします。協議事項1の次回委員会についてであります。次回委員会につきましては、12月9日木曜日に開催を予定しております。

今回の委員会では、総合政策部を中心に「雇用における男女共同参画」について伺う方向で検討しております。

次回委員会での執行部の説明資料などについて、何か御意見や御要望はありませんか。

暫時休憩します。

午前11時24分休憩

---

午前11時27分再開

○田口委員長 それでは、委員会を再開いたします。

最後に、協議事項2のその他で委員の皆さんから何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 次回の委員会は、12月9日木曜日、午前10時からです。よろしくお願ひいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。

午前11時27分閉会



署 名

働き方改革・産業人材確保対策特別委員会委員長 田 口 雄 二

